

事業所見学会（トヨタ東日本㈱ 本社・宮城大衡工場）
齊藤 忠（岡谷電機産業）

2018年5月29日午後、日本品質管理学会東日本支部新設したことも兼ねて、宮城県黒川郡にある、トヨタ自動車東日本株式会社（以下 TMEJ と記す）本社・宮城大衡工場において、第 401 回事業所見学会が開催した。

TMEJ は、2012 年に、旧関東自動車工業、旧セントラル自動車、旧トヨタ自動車東北の 3 社が統合し設立された。前年 2011 年 3 月に発生した東日本大震災により、被災した地域の持続的復興も設立の背景となっているとのことであった。

TMEJ では、現在、トヨタ車の中でも主にコンパクトカーを生産し、「東北を基盤に世界 No1 の魅力あるコンパクト車をつくる」を目指す姿とし、I. ものづくり、II. 地域連携、III. 人づくりの三つを柱にして事業を展開されていた。本社・宮城大衡工場は約 33 万㎡の敷地の中に工場が設立され、地域の環境にも配慮した活動として除草剤を全く使わず、その証拠に敷地内でヤギを放牧している。

今回は見学時間の関係から、現場見学は溶接工程と組立工程を主に見学させて頂き、もう一カ所、構内にある上記 III の人づくりの現場であるトヨタ東日本学園内にある、結 (Yui) ギャラリーを見学させて頂いた。ギャラリー内では、TMEJ が統合する前からの社歴やクルマづくりの流れ、ハイブリッドシステムの展示ブースなどを見学させて頂いた。

溶接工場や組立工場では造形されていた車両は上部から挟みこむ吊り下げ型のアームが通常のところ、本社・大衡工場では下から持ち上げ型の自主台車としていることで工場内の天井空間が空き、照明を削減出来ていた。

結ギャラリーでは実車の分解モデルの展示や現場のカイゼンのからくり仕掛けの実際の例が展示され、見学者が実際にからくりの体験が出来、これらからく

りは一般企業では作業者の注意力に任せているような作業が如何に間違いなく、短時間で作業が確実に完了できる仕掛けとなっており、皆、感銘を受けていた。

地域連携も活発で、地域の農業や食品業、水産加工業など地域の企業へトヨタで培ったノウハウを東北復興に役立てていた。

この工場は、先ほども述べたように、主にコンパクトカーを生産している。よって、1 台あたりの利益も限られている中で、TMEJ のノウハウをフルに活用し高収益を得ている実態を拝見した。

また、ここ連日のニュースで、自動車業界でも、偽装問題等もあり工場見学をお断りされるケースが多い中、正面切って見学を受けて頂けるところが、TMEJ の力のある証拠であると感じた。



ギャラリー内の AQUA 分解モデル



TMEJ の皆さんと JSQC 参加者一同